

「第 3 回世界気候会議（WCC-3）」が開催されました ～ 「気候サービスのための世界的枠組み」の構築を決定 ～

1. WCC-3 について

世界気象機関（WMO）は、他の国連機関や我が国を含む各国政府の協力により、政策決定のための気候予測（季節予報から 10 年規模の予測）をテーマとする「第 3 回世界気候会議」（平成 21 年 8 月 31 日～9 月 4 日、スイス・ジュネーブ）を開催しました。この会議には、155 の国・地域の首脳・閣僚級やその他政府代表者をはじめ、国際機関、気候問題の専門家など約 2,000 名が参加し、気候情報の利活用を通じた気候変動への適応や気候リスク管理の向上について議論を行いました。日本からは櫻井邦雄気象庁長官（首席代表）、菅沼健一在ジュネーブ国際機関日本政府代表部大使をはじめ外務省、国土交通省、気象庁等からなる代表団のほか、気候変動や気候情報の利用の分野の専門家が参加しました（WCC-3 の概要：別紙 1、WCC-3 が目指す世界：別紙 2）。

2. ハイレベル宣言

本日、WCC-3 のハイレベル宣言が採択されました（宣言の仮訳：別紙 3）。具体的には、気候サービスの提供者と水資源管理や農業等の分野における利用者間の連携強化を通じて、利用者が意思決定に活用しやすい気候情報の提供を推進する「気候サービスのための世界的枠組み」（想定される枠組みの概要の仮訳：別紙 4）を構築すること、及び、この「枠組み」の構築と実施に向けた検討を行うタスクフォースの設置が決定されました。

3. 気象庁の今後の取り組み

これらの結果を受け、気象庁は、「気候サービスのための世界的枠組み」の具体化の推進に向けて積極的に貢献してまいります。また、関係省庁を含む利用機関との連携・協力を強化し、利用者からの要望に即した気候情報の提供と気候情報の応用利用の推進を図るとともに、当庁が運営する WMO 地域気候センター（アジア地区）の活動等を通じて、アジア各国の国家気象機関がこの枠組みで求められる役割を実施するために必要な技術的支援を行います。

問い合わせ先： 03-3212-8341（気象庁代表）
総務部企画課国際室（内線 2230）
地球環境・海洋部気候情報課（内線 3152）